

あゝ、私共は恩知らずのこの男を責めねばならぬであらうか。それより先きにこの紳士達が、ほんごにどれ程この男の事を思つてゐたか、この男に對するほんごの同情、愛がどれ程彼等の心の中にあつたかを紳士達に尋ねないでいゝのであらうか。私はラスキンが「貧乏人は富者と異つた偏見をその養育院に對して持つて居る、彼等はお蔭を被らないで寧ろ死ぬことを欲して居る」といつた言葉をふと思ひ出した。近世の物質的な傲慢な寧ろ惨酷な慈善を思ひ起した。かういふ行爲が眞に人のためにしてゐる行爲といはれるであらうか。敬虔な教徒である伯はそれを敢てした。私は今一つの例を引くことを許して頂き度い。

「伯か私(メ氏)と共に庭を散歩してゐた時、百姓の子供が馬の子を下さいといつた。何を馬鹿な事をいふのだ、私は馬の子など一匹も持つてゐないではないか」「彼所にゐるぢやありませんか」「百姓か急に前んで言つた」「さうか、然し私はそんなものに何の關係もない、去つてくれ、お願ひだから行つてくれ。」伯はかう答へて二三步行つてから輕快

に溝を跳び越した。

或人はトルストイは何をしてても快して滑稽な醜惡な感じを起させないといつてゐる。然し私はこの言葉を疑ひ度い。伯があゝの不運な百姓を脱れようとして七十歳の老人には不思議な程輕快な足調で溝を跳び越したあの瞬間が、私には忘れられない。斯うした行爲は滑稽どころが寧ろ哀を催させるではないか。そして又同時に彼自身にとつても吾人全體にとつても實に恐る可き行ひではないか。誠に現代の生活に於て哀むべき滑稽は同時に恐る可きものではないか。

あれ程熱心に眞實といふことを渴望したトルストイ、あれほど忌憚なく自己と他人との弱點を責めたトルストイが斯くも甚だしい偽りを、斯くも奇怪な非法を、自己の靈と良心とに許したといふこと、これが果して恐ろしくないであらうか。」愛と信仰とを求むれば求むる程不信仰と孤獨とに下つて行つた伯の晩年は終にメ氏をして「彼は年をとるに従つて分別のある算計的な彼の超然主義、打ち解け難い心の用心、友情の得がたい性情が益甚だし

くなつて來た」と言はしめた様な慘めな生活であつた。そして私等の尊敬するこの偉人が夫人や子供や弟子や崇拜者などの暖かな人間の手から脱れて茫漠たる曠野に彼をまつてゐた永久に暗い冷たい死の手に捕へられねばならなかつたといふことは世界に於ける何といふ悲惨な事で、又何といふ恨事であらう。私は誠に尊敬すべき人に對して多くの無禮な言葉を使つてきた。自分に何の定まつた考へもなく、何の根底も持たないでかういふことをいつて來たことを恥かしくも又心淋しくも感ぜられる。けれども如何なる偉人も人として之の生活を辿つて行く時に私はそこに私自身の多くの暗い影を見て、恐れたり戦いたり、又悲しんだりしないではいられなかつた。伯の生活——私知のり得たのはほんの一部分であつたであらうが——について私の言つたり考へたり悲しんだりしたのは私が私自身の生活について言つたり考へたり悲しんだりしたのであつた。ロジアといふ陰慘な深刻な背景の前に嚴肅な人生の悲劇を演じて伯は斃れた。人生の實に恐るべく悲しむべきシーンを世界の總ての人に見せることがその

唯一の使命であつたかのやうに。私共はこの悲劇を冷やかに眺めて居られるであらうか。

北邊の古謠(講演)

文科一部四年

富澤美穂子
小倉 千 年
中山 妙

私共が今日この題目を選ぶに至りましたと申しますのは最近に金田一文學士の北蝦夷古謠遺篇と申します一小冊子が出版せられましたがこの研究は只今學界に大いなる興味を引おこして居るので御座います、そこで此本を皆様に御紹介したいと存じます、かくこの題を撰びましたので御座います、はじめに一寸御断り申しておきます事は何しろ私共の力が足りません上に落ちついた心を持つて研究又は賞讃の時を持ちませんでしたのでただこの本に現はれてゐます筋書を皆様に御紹介致すのみで御座いまし

て冬の夜もすがら節面白く物語る北邊の古謡その古謡が耳の底に響きますやうによく味もし考へもいたしました心持ちを物語する程になれてるません事を遺憾に存じます。

二

先づこの本の由來につきまして少し申し上げますとこの一篇は金田一文學士が四十年の夏樺太の東海岸に御座いますトンナイチャのアイヌ人で御座いますして東内忠藏といふ人の傳承を筆録されたもので御座います、元來アイヌは普通の神話や昔噺や童話などの外に全く違つた一種の英雄説話をもつてをりまして節をつけて唄ふもので御座います、材料は口語と恐しく違つた古語であつて構造は一聯の句を一口つづはいて一口が大抵整然と同じ程の長さに治まつてゆきますやうで御座います、そして内容は必ず半人半神の強い子供が主題になつて居て全文この英雄神自身の叙事体に出來て居ます、アイヌには此を以てこの英雄神が戰から歸つて來まして後に自らその話を村人に物語つたのが傳へゝゝになつてそのまゝ今日に及んだので全く本當の話だと信じて居るとの

事で御座います、そして大抵この主人公になる英雄神はまづ父母が子細あつて早世し赤兒の中から他人の手に養育せられて居りましてその養育者も仇のために殺さるゝに至つてこの年少の英雄神が起つて大敵をみな殺しにするので御座いますがその千難万苦の間には必ず敵中に花の如き少女があつて危難の中からこの英雄神を救ひ出し後に結婚してまゝく治るのが一篇の結構で御座います、アイヌは冬の夜寒を爐邊に團欒して古老の之をよくするものに演じて貰つては長夜の短きを啣ち往々徹宵して夜の白むを忘れてゐるといふ事で御座います、アイヌはこの物語りを淨瑠璃又は祭文と譯してよんでゐますが原名はユカラで御座います、所によつてはサコロベといひまた樺太のアイヌはハウキと唱へて居ます、サコロベは「節をもつもの」の義ハウキは「うたふ」「うたひ」の義でいづれにいたしましたもただ物語りではなくて唄ひ物の積りになつて居りますことは同じで御座います、この古謡もその一つで御座いますが此迄傳つてあつたものを文字に書著されましたこの叙事詩を親しく味ふやうにせられました事は學界に於て最も

紀念すべく且つよろこぶべき事で御座いましてこの書の出版に就ては甲寅叢書發行所の骨折りで五百部だけ印刷し私共の手に御座いますのはその「四二五號」で御座います、誠に學界の美事であると存じます。

この冊子の体裁は全篇四六版で御座いまして頁數は「一九二」の小冊子で御座いましてその中に体裁は丁度三段に分れて居りまして即上中下となつてその上はアイヌ語、中段はその譯下段は註釋で御座います中段の語譯はこれのみを通讀いたしましたも優麗な圓熟した敘事詩で御座いまして翻譯とは思はれませんが下段の註釋はアイヌ民族の信仰風俗言語などを見ますに逸してならぬ重要な研究を含んでをりましてその原文の文字に寫されましたのを悦ぶと共にこの研究がアイヌ民族の研究に一時を促すものであるかの様に感ぜらるゝので御座いますこの三段を讀み併せてアイヌ民族の古謡を味ひますと或は學問研究の興味若しくは遙か遠い北の里の冬の夜の寂寞たる天地に響く古謡を聯想して云ひ知れぬ詩趣をよび起すので御座います。

三

次にこの物語の大略の筋道に就て申し上げますとこゝに可愛らしい一人の男の子が御座いましてこの兒が一人の翁に育てられまして幼少の時から弓と矢とを弄そんで居りましたが或る日翁が申しますには「お前を養育する資料が既になくなつてしまつたので愈々今日はサンツカリの郷に（恐らくは日本の邊陲であらうと傳へられてをります）とりに行かう」と申しますので舟には家寶を積んでこれを貢としていよゝ出帆いたしましたので御座います簡様にいたしましてとある港に着きますと言葉がすつかりわかりませんが、その中に通譯がまゐりまして互に其の意を通じますと翁は先きの貢をこゝで酒の樽やの俵とかへまして舟に積んで歸途につきますと途中にあらしが參りまして舟が覆りさうになりました翁は祈りましたこと、にあらしはなぎ波は彼等と共に平和になりましたところ、がまたまもなく逆風が吹いて參りまして今度は祈りましてその甲斐はなく遂に見ず知らずの入江の尻に打ち寄せられました（彼等はこゝの逆風を魔女の仕業にちがひないと思つてをりました

た。しばらくいたしますと魔女はまゐりまして盛に息氣即惡氣を吹きかけます、この少年は木の枝の小弓を取り出し木の片の小箭を弓につがひまして戦ひました翁はいつのまにか少年をおきざりにいたしまして自分許りかへりましたあとで少年はまた大敵に出合しましてその大敵を一人残らずきりつくしました、しばらく休んでをりますとまた二人の魔女が参りまして例の息氣を吹きかけますしかしまた一人は殺され一人は這々の体で逃げました、そこでこの少年は磯つたひして家にかへりますと翁が爐ばたにゐました二人は大いに喜び別後の物語ごもいたしました、箇様にいたしましてある日、あたりの山河に出て御供へ物をとつてまゐりまして氏神まつりをしてお酒を飲んでやすみますと忍んで這入つて來る者が御座います、彼等は即二人の魔女で御座いました魔女は例によりまして臭氣を吹きかけますまゝこゝに戦は始まりました件の翁は縛られて少年は辛うじてそれをとつてやりましたかと思ふとまた四人の魔女がまゐりまして翁は斬り殺されてしまひましたかくてこの大戦争の酣に雲の中から神の如き少女は天降

つてまゐりましたと見ましたが少年は遂に傷を負ふて一時氣絶いたしました、この少女と申しますのは所謂自身で成長いたしました子で御座います神から飲食せしめられつゝ長じたので御座いますよく方術を行ふ事を知りかの少年が大敵の中に苦戦いたしてをりますのを雲の中から見まして見るに忍びず降りて参りましたので御座いますそして件の少年を氣絶の状から救ひましたがこんなにならして二人は少年の故里へかへりました、そうかうして二人が月日を過して居りますと先きの魔女等は他の村落の巨會と聯合いたしました復讐に参りました、こゝで此度こそ眞に大戦争が開かれましたが遂にこの少年と少女とは勝利者となりまして半ば神なるこの英雄はこの神なる少女を妻といたしました平安なる年月を送り四方の者はこれに靡きましたといふので御座います。

四

次に形式に就て申し述べますと金田一文學士はこれを四段に分れましたがその第一段には老翁にはぐくみ育てられて居ます英雄神の生立ちにはじまつて美少女に危難を救はれまゝ迄で御座います、少女の生立ちから英雄神を救つて共に英雄神の故里に歸りました迄を著してゐる第二段は少女が主として描き出されて御座います、第三段には魔女が中心になつて現はれて居ります、そして終は英雄神が勝利を得て少女と共に平和なる生活に入るといふ事をもつて第四段を終つてをるので御座います、かくて每段其の主格がかはつてをります事は趣が變つてをりますてかつ注意を價する事だと存じます。

一、先にも申し上げました通りかくの如き長篇のもので節をつけて歌ふ事が出來て一句は短かい一句になつて居てその口調がよく出來て居るといふのでございませぬ
二、そしてすべて動作を述ぶるに當つてその音をいつて動作にあらはすと云ふ風になつて居ります即擬聲音ナチュラルサウンドと申しまして感情的叫聲と

共に原始時代の言語の二要素となつて居りますが何しろ巧に用ひて御座います。そして曲調はわかりませんが各一段の間には「あなかしこ」(イヨッセレケ)を繰り返して口調を調べてあります、それから叙事の文と會話等が錯綜して居ります。

乃て今度は此の傳説に表れた人物について見ますとこの英雄は度々申し上げます通半神半人の英雄でをしてその英雄と申しますのが戦が上手で御座いますして幾度か大敵に苦しめられても常にこれに打勝つ事の出來る所謂英雄なので御座います、即豪傑では御座いませぬ、これは或は私の私見かも知れませぬが私は西郷だとか義仲等は豪傑で秀吉とか義經とかは英雄と云ひたいと思ひますが即この區別に於ける英雄なので御座います、可愛らしい英雄で御座います、幾度か苦しめられて切り抜ける所が私共をして可愛いらしいと思はせるので御座いませうか。次に少女と申しますのはこれも半分神の少女で本文に(一〇九頁参照)ございませぬ様に所謂自身で長せし子なので御座います。これは數多の英雄傳説の中に往々出て來る者だそうでございまして、アイヌは英雄

の好配たる資格を有する女子と云ふのは即第一に美貌を具へた第二には此の法術に秀でた者でなくてはならぬといふので御座います。そしてこの少女はこの謠の所々に出て來ます様の中々色々な方術が出来るので御座います。この少女といふのも矢張り可愛らしいしとやかな優しい、こんな形容詞のつけらるべき少女なので御座います。件の英雄にはますます好仇で御座いませう。

其他に此の魔女で御座いますが是は中々面白い女、女では御座いません矢張り魔女で御座いますがこの魔女は方術を行ふ事の出来る性の點は魔女で御座いまして或は化けたり飛んだり又は息吹を吹きかけて戦をすると云ふので御座いますこれもお讀み下さればわかりますが、この少女の息吹を吹きかけると云ふ事は實に面白い事なので御座います。かうした魔女は古謠には必ず出て來る者だと云ふ事で御座います。私はまだ傳説について委しい事は存じませんが何だかこの様な魔女と云ふものは日本の傳説には餘りない様に思ひますが寧ろかの歐巴の神話傳説に類似の者がありはしますまいかと存せられ

て見まするに一、自然崇拜 之れは原始時代の人民には必ずある事で御座いまして波があれた時に神を祈るといふ様な事なので御座います。二、祖先崇拜 これも所々に表れて參りますが即少年が故郷に歸つて來ました時に(本文七六頁參照)また是と同じ様な事が少年が少女をつれて歸つて來ました時に死んだ翁を祀る事が出て居ります(二四六頁) 三、それからこれは一種の迷信でも申しませうか然し矢張りこれも信仰なので御座いますが彼等は又次の様な事を信じて居りました。これは本文の中所々に出て居りますが例へば「二つの靈の死する音相續きて鳴り行く」とこんな風にアイヌの信仰に人が此世に生るゝや一人々に必ず憑いて居る神がありましてこれを「ツレンカムイ」と申しまして人が賢いとか愚であるとか又運が無いとかよいとかはこの「ツレンカムイ」の性質の如何によると云つて居るので御座いまして人が死ぬ時にはこのツレンカムイも一所に死ぬといふので御座います。そしてそれなりに全く死んで又生き還るといふ事をしないものは其ツレンカムイの死ぬ音が西方の空になり行き、もし東方

ます。

五

内容につきまして信仰、風俗等の注意すべき事が澤山ありますがその主なる二三の感想を述べたいと思ひます。第一にその感情を見ますに實に其の細やかな所は全篇を通じて遺憾なく表出されて居るのでございます。一体これは私の偏見かも知れませんがアイヌといふあの北邊の人種が野蠻の人種がこの情緒を持つて居たとは私は未だ嘗て思うて見た事もないので御座います。勿論私もアイヌを以て臺灣や其他の番人の如く極めて粗暴な人喰の人種等とは同じ様にも思つて居りませんでしたが然しくり返して申しますが彼等がこんな打てば美しくしう響くといふ様な情緒を持つて居らうことは思はなかつたので御座います。例して申しますれば本文(四頁—參照)また(二四八頁參照)等と其の表出は實に私共が驚くより外はないので御座います。殊にアイヌが薄造りの物を用ひ可愛いゝ小さい物を好む等は全く原始的なアイヌ人とは思はれませぬ。

次に此の中に表れて居ります宗教的方面を拾ひ上げ

へなり行くものは生き還ると云ふので御座います。まあこれもこれ位に止めて置きまして、以上この貴重な資料について私見を申しましたが更に此の冊子の研究がアイヌに民族研究の全体に及ぼす影響を考へて見まするに種々の方面に關係が御座います事は勿論で御座いますが私共の學問の上から特に1傳説の研究、2言語、文學の比較的歴史的研究の上にも興味を感じますので御座います。御承知の如くこれらの點につきましてはチェンバレン、バチエラー氏神保金澤博士鳥井氏等の研究の外其の研究が徹々たるもので御座いますが廣い意味の國語の研究におきましては是非とも之等の部分に迄研究を進めなければならぬと存じます、私はこの冊子の發表せられましたのは或は新しい未開の寶庫に入るべき鍵を與へられたのではあるまいかと考へて居ります。私は著者の學問上の功績をたゞへると同時に又只これらの古謠のみから味ひ得るいひしれぬ神々しい雄々しい且哀れな譚歌即バラートの興味を感じうる事を附け加へて此の書を諸姉に御推奨いたしたいと思ひます。

注一、當日陳列書類

一 北蝦夷圖説	十
一 蝦夷風俗彙纂前編	冊
一 全 後編	冊
一 蝦夷國風俗人情の沙汰	冊
一 蝦夷語箋	冊
一 アイヌ語會話辭典	冊
一 毛志保草	冊
一 アイヌ語辭典及文法	冊
一 北海道名國名郡名考	冊
一 東韃紀行	冊
一 北海道志	二十五冊
一 邊要分界圖考	七冊
一 韃靼物語	冊
一 北島志	冊
一 北齋備攻	冊
一 三國通覽圖説	冊

注二、北蝦夷古語遺篇
金田一京助氏著

墨 西 哥

文科二部三年

前田、常陸、須田、鈴木

皆様は今日新聞雜誌等に於て墨西哥と亞米利加合衆

國との關係が如何に困難であり又複雑して居るかと言ふことは御承知のこと、思ひます、此の時に於きまして特に墨西哥に付いて申し上げるのも無益のことでもなからうか、と思ひまして是に簡単に申して見たいので御座います。

そこで先づ之を二方面から御照會いたさうと思ふ、一つは地理上に於けるメキシコで最一つは歴史 upper 地理上より見たる墨西哥は先づ六つに分つて、即ち位置・面積・地勢・氣候・産業・住民に付いて説明致します。

墨西哥の位置は合衆國の南に位して略々三角形の狭地をなして居ります東はメキシコ灣及カリブ灣に面し南は英領 Honduras Guatemala に連り西南は大平洋に面して大部分熱帯に屬して居ります。

面積は太平洋中の Bahía Gigedo を合せて我國(併朝鮮)の約三倍で、七六万七千方哩であります。

地勢は南北亞米利加を通じて西部沿岸を通つて居ります山脈をコーゼナル山脈と申します此の山を墨西哥では特にシエラマドレ山脈と申します此の山は

臺地の東西の線を作つて居ります此の高原は北部千二百米位より順次南に赴くにつれて高さを増し二千三百米位に達して居ります此の山脈の間には又火山の現象が活潑であつて主なるものは南部にありまして最高のもを「ポポカテペトル」と申しまして富士山より千米位高くて五千米以上あります。

河流は中央の高原から東西に流れますが中央高きため急下し瀑布深淵を作つて長く大きな物はまれです、湖沼も亦少くは御座いませんで山間に於ましては中々風光の明媚な所があります。

海岸は合衆國の東部及び南部沿岸に於けるが如く平直でありまして沙洲が發達し漏が多くあります、良港に乏しいのです。

氣候は緯度の上よりしますと熱帯でありますが而し土地の高低によりまして垂直的に分布があります、沿海地の低き濕潤なる地から千米の高き地までは熱帯區でありまして暑氣大に健康に適しません、千米より二千五百米までは温帶區でありまして氣候温和に甚しい激變もありませんが二千五百米以上は寒帶區とも申して宜しいが空氣乾燥して寒冷の時には多

少の霜雪を見るのであります、それから尙北緯二十八度以北は四季の別がありますが以南は乾濕の二期に分れてありまして濕期は五月から九月までで大雨を降らし時々烈しい俄雨があります、乾期は十月から翌年の四月までの間で殆んど降雨がなく大風沙塵を捲き人畜に害を與ふる事が多いのです。

産業は其の主なるものを申しますと、農業は土地の高低氣候によりまして異つて居ります農産物の主なる者は大麥、小麦、トモロコシ、コーヒー、ココア、バナナ、バナ、綿、カンペチー等であります高原地からはサポテン、マツキー等が出來ます、此のマツキーより取ります麻は銀に次ぐ重要輸出品であります、鑛山等は頗る盛であります金銀銅石油が主なるもので就中銀最も多く世界第一であります其の外工業、水産業等共に勃興しつつあります。

次に住民に付いて申しますが此の地方の人口は我朝鮮と均しく約千万人で之を面積に比例しますと一方哩に僅に十八人位であります、人種は主として白人種(主としてスペイン人多し)土人、混血族であります、最も多いのが混血族です言語はスペイン語が